

「また元気で会おうね」 ホタルの幼虫を放流

11月13日、柏原小学校の児童が、学校の近くを流れる夜星川にホタルの幼虫を放流しました。

放流した幼虫は、今年5月にホタルの雄と雌を採取し、卵から幼虫になるまでの6ヶ月間、子ども達が学校で育てたものです。

ホタルの生殖は、発泡スチロールの箱の中で行われ、エサとなるカワニナを捕って与えたり、夏場には水温を22度から23度に保つよう氷を入れるなど大切に管理をされたそうです。

救仁郷泰子校長先生は「さつま町はホタルが有名です。今年は大きな水害で川の様子もすっかり変わってしまいました。私たちが育てた138匹のホタルの幼虫は水害から救った小さな命です。また元気で会えることを楽しみに放流しましょう」と話されました。

下大迫幹朗くん（5年生）は「また元気で会おうね」と声を掛けながら大切に育てたホタルの幼虫を放流しました。



大切に育てたホタルの幼虫を
夜星川に放流する子どもたち

いきいき人生 エイジレス・ライフ実践者

野崎正寛さん表彰

山崎の野崎正寛さん（78歳）が「年齢にとらわれず、自らの責任と能力において、自由に生き生きとした生活を送っている高齢者」として内閣府の平成18年度エイジレス章の表彰を受けられました。（全国で45人、うち鹿児島県1人）

野崎さんは、過去に培った知識や経験を生かし、昭和58年にビデオ機材を入手して以降、郷土に残る文化芸能の保存・伝承活動に精力的に取り組まれています。その功績が認められ、今回

の受賞となりました。

平成12年には、民族文化財・郷土芸能を題材とした郷土学習教材「わが町の足跡」を、平成17年には郷土の作家「古希鐵太郎の文学風景」を編集され郷土教育の推進に大きく貢献されています。

現在、野崎さんは町老人クラブ連合会事務局長として老人クラブの活動の手助けをされていますが、「今後も地域の隠れた財産を記録し続けたい」と話されました。



受賞の喜びを井上町長へ伝える
野崎正寛さん（10月30日來庁）

西 智美さん

「コミュニティ賞」を受賞

鶴田中学校3年生の西智美さんが、鶴田中学校で自分たちが日頃から行っている義援金活動や清掃活動などのボランティア活動をレポートにまとめたものが評価され、第10回ボランティア・スピリット賞「コミュニティ賞」を受賞されました。

今回受賞した賞は、プルデンシャル生命、ジブラルタ生命保険が主催するもので、地域に貢献したボランティア・スピリットと優れた行動力を称えるものです。

スマトラ沖地震の時、募金活動をきっかけにボランティア活動を始めた西さん。「これまで、学校のみならず取り組んだ様々なボランティア活動が評価され、うれしく思います」と話されました。



受賞の喜びを福満教育長へ伝える西 智美さん